

# 毎年9月は がん征圧月間です!

現在、日本では国民の2人に1人が生涯に一度はがんを患うとされますが、医学の進歩により早期発見・早期治療で治るがんも増えています。毎年9月は「がん征圧月間」です。適切な時期にがん検診を受けることで、大切な命をがんから守ってください。

公益財団法人日本対がん協会  
2021年度がん征圧スローガン

コロナでも  
変わらぬ習慣  
がん検診

## 乳房を意識する新しい生活様式へ

### コロナ禍におけるがん検診の動向

新型コロナウイルスの感染拡大は、日常生活に深刻な支障をもたらしています。乳がん検診を含めたがん検診もその影響が見られます。当初はいわゆる三密(密閉空間・密集場所・密接場面)回避の原則に基づいてがん検診の受診も控えることが推奨されたため、昨年度のがん検診受診者の減少が全国で確認されました。日本対がん協会のデータによると2020年度のがん検診受診者は、対前年比30%減であり、コロナ禍の影響でがん検診の受診を控えている現実が明らかになっています。これによりがんの早期発見ができず、治りにくい、重い治療の必要な進行がんとなる方の増加が心配されています。

現在では、みなさんが安心してがん検診を受けていただくための安全対策を取ることができるようになり、国も定期的ながん検診の受診継続を推奨しています。今年からは、また安心して乳がん検診を含む、がん検診を積極的に受診していただきたいと思えます。

### わが国の最新の乳がんの動向

乳がんと診断される日本人女性は増加の一途をたどっており、現在9人に1人が乳がんになるといわれています。また、乳がんで亡くなる女性の数も残念ながら増加しています。その理由は、乳がん検診の受診率の低さにあります。胃がんや肺がんのように年齢が高まると増えるがんと異なり、乳がんのピークは45～49歳です。社会と家庭を支える比較的若い世代に多く、仕事や家事・育児で忙しく、乳がん検診を後回しにする女性も多いことがわかっています。

乳がん検診を受診して乳がんを早期に発見し、適切な治療を受けると良好な経過が期待できます。乳がん検診の受診が、ご自身の健康と家族の笑顔を守る一つの方法となります。

### コロナ禍だからこそ、ブレスト・アウェアネス

ブレスト・アウェアネスは「乳房を意識する生活習慣」であり、具体的には①自分の乳房の状態を知り、②乳房の変化に気を付け、③変化に気付いたらすぐ医師に相談し、④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受けるという4つの習慣を目指します。年代に関わらず女性が乳房の状態に日頃から関心を持ち、注意すべき乳房の変化を知り、変化を感じたら医療機関へ早期に受診することで、乳がんも診断されても治ることが期待できます。コロナ禍だからこそ、ブレスト・アウェアネスによる新しい生活様式に取り組みましょう!

## コロナ禍でも、がんは「早期発見」が基本

### 受診控えで病気が進行した人も!

昨年来の新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中で、患者さんの受診控えが問題になっています。静岡がんセンターのようながんの専門病院ですらその影響がみられます。当院では2002年に開院以来、がんの手術件数は毎年増えていましたが、2020年は2019年に比べ131件減少しました。

少し調子が変わり、と思っても我慢してしまった人が少なくないのではないかと心配しています。今年になって紹介されてくる患者さんをみると、「病気が進んでしまっている方が増えた」と現場の医師・看護師は口をそろえます。こうなるまでに、何らかの症状があったのではないかと、思える患者さんが増えました。

### ワクチン接種とともに「がん検診」

コロナのために、昨年度のがん検診が縮小したことも影響しました。当院の周辺の市町でも、胃がん検診としての内視鏡検査や、肺がん検診としての喀痰細胞診検査は、ほとんど中止されました。一部では、大腸がん検診としての便潜血検査も行われませんでした。がんという病気は、ある程度進行しないと症状が出にくいので、早期のうちに発見するためには検診は欠かせません。

今年はどこの市町でもがん検診を通常通りにもどしています。コロナのワクチン接種とともに、積極的にがん検診を受けていただきたいと思えます。

### 万全の感染対策で安心を提供

病院内には、病気や治療のために抵抗力が落ちた患者さんが多く入院しておられます。そうした患者さんに安心して治療を受けていただくため、当院ではさまざまな感染対策をしてきました。これまで、当院の患者さんや職員が市中でコロナに感染したことはありませんが、一連の感染対策が功を奏し、院内感染が起きたことはありません。日常生活では注意していただきつつも、病院には安心して受診していただきたいと思えます。

コロナ対策のために、当院も患者さんへの面会制限をするなど、ご不自由をおかけしています。しかし、ワクチン接種を済ませた方には、面会制限の一部を緩和しました。そのほか、オンライン面会もできますし、さらに近々オンラインセカンドオピニオンも開始する予定です。今後もがん医療を遅滞なく進めてまいります。積極的にがん検診を受け、少しでもおかしいと思ったら、我慢せずに医療機関を受診していただきたいと思えます。



静岡県立静岡がんセンター  
乳腺画像診断科  
兼 生理検査科部長  
植松 孝悦 先生  
1992年新潟大学医学部卒業。92年から2001年まで新潟大学附属病院、新潟県立がんセンターなどで勤務。02年から静岡がんセンターに赴任。13年に生理検査科部長、17年から乳腺画像診断科部長兼任。日本医学放射線学会診断専門医、日本乳癌学会乳腺専門医、日本乳癌学会理事、日本乳癌検診学会理事、日本乳がん検診精度管理中央機構理事。



静岡県立静岡がんセンター  
病院長  
上坂 克彦 先生  
1982年名古屋大学医学部卒業。97年ハーバード大学留学。2002年静岡がんセンター肝胆外科部長、11年副院長、20年病院長就任。日本外科学会代議員・指導医、日本消化器外科学会評議員・指導医、日本肝臓病学会評議員・指導医、日本胆道学会評議員・指導医、胆道癌診療ガイドライン作成委員、胆道癌取扱い規約実務委員等。

がんを早期発見するためにも定期的ながん検診をおすすめします。